

カトレア・サービス さくら・きくい・しばた 研修報告

さくら：〒457-0026 名古屋市南区見晴町 1-15 TEL:052-811-2949,825-5562,824-0296 arch-sakura@2949n.com
 きくい：〒451-0044 名古屋市西区菊井 1-10-10 TEL:052-581-2949・2943 arch-kikui@2949n.com info@2949n.com
 しばた：〒457-0814 名古屋市南区柴田本通 2-1-1 TEL:052-613-2949・2944 arch-shibata@2949n.com

「名古屋市 平成30年度ホームヘルパー現任研修」

障害児と重症心身障害児者への支援～であい・ふれあい・そだちあい～

日時：2018年9月7日（金）、13日（木）、21日（金）

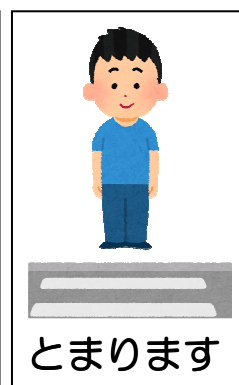
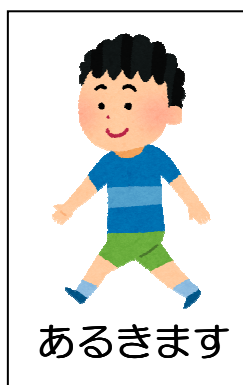
委託実施団体：社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館

参加者：山田、溝口、服部

3日間にわたる研修では、「障害特性と基礎知識」「重症心身障害児者の地域支援・生活支援」「訪問看護の今」をテーマに話をさせていただきました。

障害特性と基礎知識では、自閉症スペクトラム障害（ASD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）、発達性協調運動障害（DCD）の障害特性を細かく事例を交えて、また、コミュニケーションのとり方に重点をおいて教えていただきました。

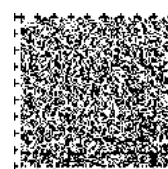
彼らに伝えるときには、彼らのわかることばで、短い文、肯定文、イメージしやすく、具体的にコミュニケーションをとることが大事であり、例えば「片付けなさい」と抽象的なことばではなく「ボールをかごにいれます」と具体的なことばで伝えること、「走っちゃダメ」ではなく「歩きます・とまります」など、どうしてほしいかを伝えることが大切です。ことばを伝える側にも、ことばを受け取る側にも「理解してもらえらる」ように取り組むことの必要性を学びました。



発達とあそびでは、作業療法士による感覚統合理論についてのお話でした。発達障害のある子どもの中には、外から受ける刺激を適切に整理することが苦手で自分の体を実感できていないため、それにより「姿勢が崩れてしまう」「落ち着きがない」「動作が粗雑」などの影響が出てきたりします。5つの感覚として、視覚・触覚・聴覚・前庭感覚（平衡をとる）・固有感覚（筋肉や関節に感じる）があり、事例をあげ、どの感覚に過敏さがあるのかを教えていただきました。また、子どもは脳にたくさんの栄養＝感覚をあげることで発達していき、自分のからだを感じさせてあげるために、子ども達が意欲的にあそびを行うことが大事になります。そのために私たち支援者は、まずは、楽しいと感じられるように、そして、あそびをとおして達成感や自信につながるということを感じられるよう支援していくことが大切であることを改めて感じました。



重症心身障害児（者）については、はじめに重症心身障害とは何かというお話からしていただきました。重症心身障害児（者）とは、重度の肢体不自由と重度の知的障害が重複した状態のことをいいます。医療が進んだ現在、救える命は多くなってきている一方で、晩婚化・晩産化・医療の発達が原因で医療的ケアが必要な重症児が増加しています。愛知県では、医療的ケアをしている施設が少ないため、



在宅で過ごす重症児が全体の9割、重症者が8割と平均より多く、福祉サービスが増えた今でも、ワンオペ介護になり、家族の負担が大きいのが現状だそうです。

また、保護者から、放課後保障が全くなかった10年前に比べ、サービスが充実した現在でも、「在宅でお風呂に入れるのが困難」「学校から自宅までの送迎が困難」「本児が楽しめる場所がない」「学童期から大人へのサービスの移行が困難」というお話もありました。意思表示の難しい人たちの思いをどう受け止め、代弁していくか、本児のニーズ、保護者のニーズをどう組みとって活動していくのが、今後の課題であると感じました。

今回の研修を受けて、今後の支援でも、子ども一人ひとりの快・不快をしっかりと捉える事を大切にしていき、「あなたといても大丈夫」「あなたといるから安心」と思ってもらえるよう努めていきたいと思えます。関わることの大切さと難しさを改めて実感した研修でした。(溝口沙織)

「自閉症の特性理解と行動支援」

日時：2018年9月15日(土)

主催：TEACCHプログラム研修会 愛知支部

講師：水野敦之さん(宮崎県中央発達障害者支援センター センター長)

参加者：西山

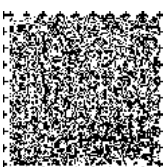
私は自閉症について十分理解しておらず、子どもと関わっている時「今、この子はこんな行動をしているけど何故だろう?」「遊んでいるときに急に怒った声を出すようになったけど、どうしてだろう?」と疑問に思うことや対応の仕方どうすればいいのかと考えることが増えてきたので今回の研修に参加しました。

今回の研修は水野さんの体験を交えながら自閉症の特性についてお話をいただきました。

自閉症の特性として、言葉やジェスチャー・表情での理解が難しい、「あれ」「これ」など曖昧な表現の理解が難しい、全体よりも細かい部分に注目をするなどの特性があります。

自閉症の特性があっても自立的で豊かな質の高い生活が広がるようにその子の得意な部分を活用し、苦手な部分を支援していくことが大切とのことでした。そのためには自閉症の特性を知ることが重要です。

また、気になる行動については、「冰山モデル」を用いてお話されました。気になる行動は氷山の一角にすぎず、水面下にはもっと大きな氷(要因)があり、その要因は「本人の特性」と「環境・状況の影響+これまでの経験」との相互作用で引き起こされるという捉え方です。この要因に着目し、何故その行動が引き起こされるのかを考えます。気になる行動は本人にとって何か意味があり、その行動が他人に迷惑をかけることなのか、場面によって問題ではなくなるのではないかと考えることも大切とのことでした。気になる行動をしているときの対応の例として、「つば吐き」を挙げお話をしてくださいました。辺り構わずつばを吐くことは他人に迷惑をかけてしまいます。そのつば吐きという行動自体を「やめなさい!」と注意するのではなく「ここにつばを吐いていいよ」とルールを決め、つばを吐くことができる場所を作ってあげると次第につばを吐かなくなるなど水野さんの体験を話してくださいました。



アメリカ人はアメリカの文化があり、日本人には日本の文化があるように自閉症の文化を尊重するという言葉が印象に残っています。一つひとつの行動や声は本人にとって意味があり必要のことだと感じました。自分自身にゆとりを持って接することができればよいと思いました。(西山仁美)